



【は】っけん・気付く

久遠

【ル】ートを考えつながら

【え】がおを創り出す



春江中学校教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

家族との時間（北朝鮮による拉致問題を考える）

校長 横枕 耕史

昨年、故郷の両親が逝去しました。父はパーキンソン病とよく似た病状の進行性急性核状性麻痺という難病に罹患し、病状の悪化とともに会話ができなくなりました。亡くなる前の面会では、言葉を発せない父の目を見つめ語りたいことを想像することしかできませんでした。母は6年にわたって癌と闘い続け、父が逝った後を追いかけるように旅立ちました。私は18歳で郷里を離れ、盆や正月に帰省するくらいでした。振り返ると両親と過ごした時間は実に少なかったこともあり、もっと一緒にいてあげればよかったと後悔しています。親子で過ごす時間には限りがあることを意識し、「今」という平凡な日常の一時、家族みんなで過ごす時間が大切で愛おしいものであることを再確認しました。

さて、本校では10月15日(水)に道德授業地区公開講座を実施いたします。生徒が拉致問題について深く認識し、人権問題として深く考える契機とするため、アニメ「めぐみ」を事前に視聴した上で、拉致被害者の横田めぐみさんの弟である北朝鮮による拉致被害者家族連絡会代表の横田拓也氏を講師にお招きして、北朝鮮による拉致問題についてご講演をいただきます。

【政府拉致問題対策本部公式動画チャンネル】

「(全編) 北朝鮮による拉致問題を考える一日
本の拉致被害者御家族の訴え」



「北朝鮮による日本人拉致問題啓発 アニメ『めぐみ』」



1977年11月15日朝、いつものように学校へ出かけた、当時13歳、中学1年生の女の子が、夕方、学校からの帰宅途中に突然姿を消しました。横田さんご一家の平和だった日々は、その瞬間から一変し、あらゆる事態を想像しながら、無事を祈り、帰ってこない娘めぐみさんを捜し続けることになりました。その実態が〈北朝鮮による拉致事件〉という途方もないものとは思ひもしないで・・・。

それから30年。怒りや悲しみに包まれながらも、めぐみさんのご両親はめぐみさんの生存を信じ、めぐみさんを取り戻すための果てしない闘いの日々が続いているのです。

その凛々しくも強く懸命な姿は多くの人の共感を呼び、日本政府だけでなく、多くの国を動かすまでになりました。この映画では、その様子が克明に描かれています。

(出典：拉致問題対策本部事務局 HP
映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」のストーリー)

横田めぐみさんは、春江中学校が開校した年の昭和52年に拉致され、未だにご家族に会っていません。北朝鮮による拉致問題は、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題であり、国の責任において解決すべき喫緊の重要課題です。私たちは、時間的な制約がある拉致問題を風化させずに自分事としてとらえ、一刻も早い解決にむけ、できることをしていくことが大切ではないでしょうか。